

リヨン市立図書館に寄託された、フォンテーヌ図書館所蔵イエズス会コレクションについて<sup>1</sup>

安室 可奈子

## I. コレクション寄託の経緯と意義

シャンティイ市近郊にあったフォンテーヌ文化センターに所蔵されていたイエズス会コレクションが、同センターの閉鎖に伴い 50 万冊の所蔵資料がリヨン市立図書館に移管、寄託されたのは 1999 年のことであった。寄託先であるリヨン市立図書館（以下、BML と略記）は、市立でありながら蔵書数約 300 万冊、年間利用者数 100 万人を数える大図書館である。本拙論は、その概要について美術史研究者の立場から述べるものである。

筆者は 17、18 世紀のフランス神話画を研究しており、こうした作品の成立過程に影響を与える可能性のあった同時代の挿絵本に常に興味を持ち続けている。例えばよく知られたオウディウス『変身物語』のように、古代の神話文学における物語記述は、古典絵画主題の文学典拠として美術史研究の中で常に取り上げられる。絵画の描かれた時代と同時期に刊行された書物に挿入されている挿絵版画が、直接、間接に画家の視覚的着想源となる事例も多々あり、挿絵書物の出版史的背景が作品の成立にどのように関わっているのかという視点で研究を続けている<sup>2</sup>。

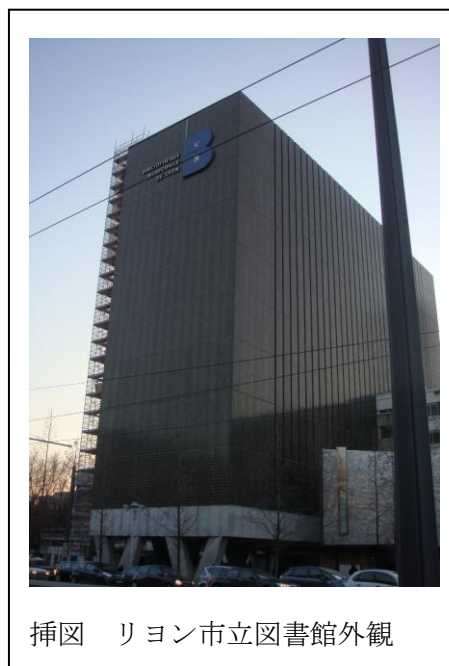
ところで、こうした挿絵入りの一次資料はほとんどが貴重書扱いで、一般的にはパリのフランス国立図書館では「レゼルヴ (Réserve)」と呼ばれる貴重書室で閲覧することになる。レゼルヴで管理されている図書資料は保存の観点から閲覧が厳しく制限されており、限られた現地滞在期間においては時間切れという局面もしばしば起こる。場合によっては、パリ以外の地方図書館の方が場合によっては調査がしやすいという状況が多々あるのである。そのような視点からも、キリスト教のみならず、人文、社会、自然科学と多岐に渡る蔵書内容であり、図像学研究の傍証となり得る豊富な資料群を形成しているイエズス会コレクションが、パリではなくリヨンで閲覧できる意義は大きい。

リヨン市立図書館（以降、BML と略記）は、市立でありながら蔵書数約 300 万冊、年間利用者数 100 万人を数える大図書館である。図書館の創設は 1972 年であるが、イエズス会との関係は 16 世紀半ばまで遡る。当時のリヨン市が、コレージュ・ド・トリニテ（現在のリセ・アンペール）の管理・経営をイエズス会に託したのである。そこで収

集された多数の古版本は後の BML コレクション形成における貴重な礎となった<sup>3</sup>。そのような縁から、イエズス会コレクションは BML に寄託された。一方、この寄託によって、それまでは図書カード式で管理されていた所蔵資料のオンライン蔵書目録化が行われ、資料へのアクセスが容易になり、閲覧者にとっても利用しやすい環境が実現することとなった<sup>4</sup>。

移転は、1998 年 12 月から翌年 1 月にかけて行われた。所蔵資料の大々的な移転の様子は、BML のホームページでも詳細に紹介されている。移転にあたって 1737 本の移動書架を運ぶためには、

少なくとも 37 台のセミトレーラーが必要になると想定されていた。合計で 9846 延べメートルにもなる図書と定期刊行物が、リヨンに再び設置された。このコレクションが図書館に占める総面積は 1900 平方メートルにおよび、17 階建の書庫の 2 フロアー以上を埋め尽くしたという<sup>5</sup>。



挿図 リヨンの市立図書館外観

## II. イエズス会コレクションの概要と特徴

イエズス会は、1534 年にイグナチオ・デ・ロヨラ、フランシスコ・ザビエルらによってフランス・パリで創立されたカトリックの男子修道会である。結成後まもなく迎えた対抗宗教改革期には、カトリック信仰の普及に力を注いだ。また世界における宣教活動を積極的に行い、1549 年には日本にもザビエルが布教のため上陸したことはよく知られた歴史的事実である。またこうした宣教活動を通じて、イエズス会は大学や高等教育機関としても大きな役割を果たした<sup>6</sup>。各国において数々の弾圧や禁止の歴史を経ながらも存続し、現在も会員数 2 万人を誇っている。

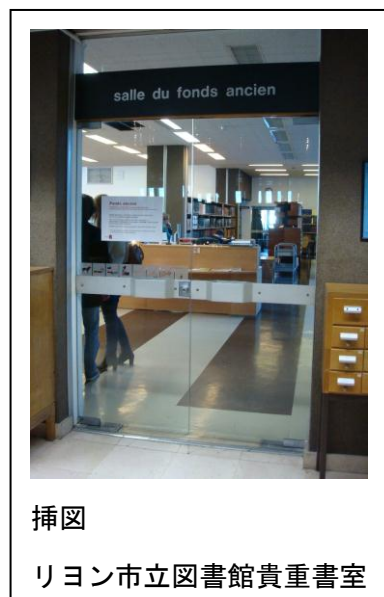
こうした長い歴史の中で世界各国のイエズス会の拠点において収集、所蔵されていた資料群が、1951 年よりフォンテーヌ図書館に集約されることになった<sup>7</sup>。主な出所は、1880 年にジャージー島に設置されたイエズス会より約 30 万冊、ベルギーの神学図書館

より約 15 万冊となっている。これに加えオーヴェルニュやエクサン・プロヴァンス等、フランス国内の関係機関から約 6 万冊が集められた<sup>8</sup>。

その豊富な蔵書内容には、写本 800 点、グーテンベルク聖書<sup>9</sup>等のインクナブラ（初期木版活字本）200 点、宗教主題の版画や画像 10 万点など、長い宗教活動の中で集積された貴重な資料が多数含まれている。その他、信仰に関する書（テキストと多数の挿絵）、教父の著作や思想の研究、中世から現代までの神学書、数多くの注釈を含む聖書、典礼研究、教会史、宗教史等、キリスト教に関わるあらゆる資料群を形成している<sup>10</sup>。

一方、イエズス会がこのような神学的・宗教学的な哲学に基づきつつ、16～18 世紀に刊行された人文科学やヨーロッパ文化についての書物も広く収集してきた事実は興味深い。宣教活動のための歴史や地理、文学、法律、社会科学、美術史、秘教、フリーメイソン、魔術、悪魔研究、オカルティズム等そのジャンルは多岐に渡り、普遍性や百科主義性を兼ね備えているのもこのイエズス会コレクションの特徴である<sup>11</sup>。特に約 1 万 2 千点の中国コレクションは、イエズス会が上海において行った学術活動を裏付ける重要なもので一見に値する<sup>12</sup>。

このようにイエズス会コレクションは、人文、自然、社会科学のあらゆる分野に携わる研究者にとって、同時代資料を軸とした研究の発展に大きく寄与する可能性を秘めた内容と言えるのである<sup>13</sup>。イエズス会コレクションは、BML の貴重書コレクション室（Fonds anciens）で閲覧することができる。また所蔵目録はウェブ上で検索可能である<sup>14</sup>。



挿図

リヨン市立図書館貴重書室

### Ⅲ. 貴重資料の紹介

筆者の専門分野である近世フランス美術史研究にとって、作品の着想源となる同時代の文学や伝記資料はとりわけ大きな価値を有する。とりわけ同タイトルの異なる時代の版を参照することは、絵画作品への挿絵の影響論を論じる上で非常に有意義である。イエズス会コレクションの中にもそのような時系列のシリーズで収集されている貴重書があり、中から数例を紹介したい。

イエズス会コレクションの中でBMLが代表的な所蔵資料のひとつとして紹介しているのが、リヨンに所縁のあるカトリック聖職者・聖フランソワ・ド・サルの代表作『神愛論』である<sup>15</sup>。サルが1610年に設立した「マリアの訪問修道会」の修道女たちに向けて書かれた。初版本は1616年にリヨンで刊行された<sup>16</sup>。イエズス会コレクションにはこの初版本から現代のプレイアード版まで複数の版が所蔵されており、刊行の流れや図像の展開を追うことができる<sup>17</sup>。また多くの版に著者の精密な肖像や当時のキリスト教図像が口絵として伴われている。17世紀以降のフランスにおける聖人図像の伝播や宗教絵画との影響関係を論じる上で重要な資料と言える。例えば1626年リヨン版<sup>18</sup>の口絵にはキリストが心臓とともに描かれているが、これは同時代にフランドルで活躍していたヴィーリックスの版画との関連性が指摘できる<sup>19</sup>。

この他、文学の分野では、『モリエール全集』<sup>20</sup>も17世紀末から19世紀にかけての挿絵付の版が充実しており、イエズス会コレクションを含め40点の異なる版が貴重書室に所蔵されている<sup>21</sup>。また、歴史図像との関わりでは、アンリ四世の伝記<sup>22</sup>があげられる。数々の伝記作家が取り上げてきたアンリ四世の生涯についての異なる版が、17世紀前半から18世紀を中心にコレクションとして所蔵されている。発表者は平成22-24年度科学研究費の研究分担者として、目下フランスにおける歴史画と挿絵本の関係について共同研究を進めている<sup>23</sup>。フランスにおいて画家たちが王のような実在した権力者の逸話を取り上げる際に、参照したであろう伝記のコレクションに注目している。

#### IV. 画像資料とデジタル・アーカイブ化

本論考の冒頭でも述べたように、イエズス会コレクションがフォンテーヌ図書館からBMLに移管されたことでオンライン目録化が進み、貴重資料がより迅速、体系的に閲覧できるようになった。コレクションに含まれている10万点に上る版画等の画像資料については、すでに目録化がなされており、諸聖人、聖母子像、その他の図像で分類された成果が刊行されている<sup>24</sup>。また所蔵されている画像資料の概要についても、リヨン第三大学の修士論文としてまとめられた<sup>25</sup>。しかしながら、これらの画像資料群はまだ閲覧体制が整っていない。同コレクション担当司書・ケルグントゥイユ氏によれば、時期は未定であるがデジタル化を検討中の段階とのことである。

リヨン市立図書館はこれまでも所蔵資料のデジタル化公開を推進してきた。例えば、著作権との関係で公開が一部に制限されている場合がほとんどだが 2008 年よりグーグル・ブックスとの提携で約 50 万冊を提供している<sup>26</sup>。同時に、写本の彩色細密画や古版本の蔵書票など貴重書室管轄の資料から複数のテーマに分類された 3 万点の画像をデジタル資料データベースとして自身のウェブ上で公開しており<sup>27</sup>、アート・ドキュメンテーションの分野からもそのとりくみが注目される。

なかでも版画データベースは、レンブラント、カロ、カラッチ等の作品を含む 16～19 世紀の版が約 5 千点をウェブ上で閲覧することができ、現在も更新が続けられている<sup>28</sup>。ここでは作者名のみならず主題別での検索が可能で、国境を越えた美術史研究のツールとして大いに活用



挿図 6 BML 版画データベース

できる。近世ヨーロッパで数多く流通していた絵画作品に基づく複製版画のデジタル・アーカイブ化の事例は少なく、フランス国立図書館の版画部門でも体系的には公開されていない。イエズス会コレクションについても、BML のデジタル資料データベースに加えられる日が大いに期待される。

おわりに

以上、リヨン市立図書館に寄託されたイエズス会コレクションについて、その概要と意義を報告した。近世ヨーロッパの大学・高等教育機関としての役割を担ってきたイエズス会は、広く文化的な視点からその蔵書を形成してきた。それらの集成をリヨンで参照できることは、フランス研究に携わる多くの研究者にとって意義深いことである。とりわけ美術史研究者にとっては、宗教画像のみならず、神話、歴史画像を取り上げる際に大変貴重な資料群と言えるだろう。

<sup>1</sup> 本論考は、2012 年 6 月 9 日に開催されたアート・ドキュメンテーション学会 2012 年度年次大会において行った口頭発表の内容を加筆・修正してまとめたものである。また同年 2 月のリヨン市立図書館における現地調査では、同図書館イエズス会コレクション担当司書

- 
- のヤン・ケルグントウイユ氏に貴重なご教示を賜った。この場を借りて謝辞を述べたい。
- 2 拙論「1732年版オウィディウス挿絵本とアムステルダムの芸術家たち」『愛国学園大学 人間文化研究紀要』、第12号、2010年3月、pp.55-67.
- 3 詳細な沿革については、BML ホームページの該当ページを参照  
<http://www.bm-lyon.fr/accueil/organisation-BML/Historique.htm>
- 4 なお現在も BML の貴重書室前では、フォンテーヌ図書館時代の図書カードが閲覧可能となっている。
- 5 移転の様子については、BML ホームページ  
<http://www.bm-lyon.fr/expo/virtuelles/jesuite/9.htm> に写真を伴って詳しく報告されている。
- 6 イエズス会の歴史と宣教活動については以下の文献を参照：フランシス・トムソン『イグナチオとイエズス会』中野記偉訳、東京、講談社、1990；フィリップ・レクリヴァン『イエズス会：世界宣教の旅』、垂水洋子訳、大阪、創元社、1996；ウィリアム・バンガート『イエズス会の歴史』、岡安喜代、村井則夫訳、東京、原書房、2004。またイエズス会日本管区ホームページ <http://www.jesuits.or.jp/> も参照した。
- 7 なお、19世紀から現在までのイエズス会図書館の歴史については、モレディナ氏の博士論文に詳しい MOLEDINA(S.), *L'histoire des bibliothèques jésuites à l'époque contemporaine*, 1814-1998, thèse de doctorat soutenue à l'EPHE, 2007.
- 8 *Collection jésuite des Fontaines* (BML ホームページ  
<http://www.bm-lyon.fr/decouvrir/collections/fontaines.htm>) を参照。また資料の具体的な来歴図が <http://www.bm-lyon.fr/decouvrir/collections/provenance-fonds-jesuites.jpg> に公開されている。
- 9 グーテンベルク聖書は、初版として全世界に現存する19版のうちの1点で、BMLには1452年頃にマインツで刊行されたうちの10神葉が保存されている。
- 10 一例として、15世紀後半に刊行された『ヨハネ黙示録』やロベール・エティエンヌ『聖書』(パリ、1532年)があげられる
- 11 BML が例として紹介している文献の中には以下のような多岐に渡る分野の資料がある：シャトラン『歴史地図』(アムステルダム、1708)、レオン『アフリカについての記述』(リヨン、1556)、『シャルダン男爵のペルシャ旅行』(アムステルダム、1711)、ルドルフ『エチオピアの歴史』(フランクフルト、1691)、カルメ『霊の出現と吸血鬼、ハンガリーの幽霊についての論説』(アインジーデルン、1749)、コラン・ド・プランシー『悪魔事典』(パリ、1825)など。
- 12 一例として、19世紀に教育目的で作られた漢字とラテン語併記のイラストボードなどがあげられる。
- 13 ここで述べた概要については、BMLによるイエズス会コレクションについてのホームページの記載に基づく <http://www.bm-lyon.fr/decouvrir/collections/fontaines.htm>
- 14 BML オンライン所蔵目録 <http://catalogue.bm-lyon.fr/>
- 15 フランソワ・ド・サル (François de Sales, 1567–1622) は、カトリックの聖人および神父である。サヴォワ地方で生まれ、リヨンで没している。聖サルについては以下の文献を参照：LEMAIRE(H.), *Saint François de Sales : les textes essentiels de Saint François Sales, présentés pour notre temps avec son message amour filial et d'ouceur fraternelle*, Paris, P. Lethielleux, 1968；LAJEUNIE(E.-J.), *Saint François de Sales, l'homme, la pensée, l'action*, Paris, G. Victor, 1966
- 16 Saint François de Sales, [*Traité de l'amour de Dieu*], Lyon, 1616
- 17 註に記載がある版以外では、1617年リール版(出版社 P. de Rache)、1717年パリ版(出版社 F. Léonard)、1747年パリ版(出版社 H. L. Guerin)等、31版が所蔵されている。
- 18 Saint François de Sales, *Traité de l'amour de Dieu*, Lyon, P.Rigaud, 1626

---

<sup>19</sup> MAUQUOY-HENDRICKX(M.), *Les estampes des Wierix*, I, Bruxelles, Bibliothèque Royale Albert Ier, 1978.

<sup>20</sup> モリエール (Molière, 1622-1673) は、17 世紀フランス古典劇の劇作家。1660 年頃からパリで上演した数々の喜劇舞台で人気を博し、死後、それらの台本が全集として刊行された。モリエールについては、以下の文献を参照：HARTNOLL(P.), ed., *The Oxford Companion to the Theatre*, London, Oxford University Press, 1951, pp.647-650; 小場瀬卓三、「モリエール」、早稲田大学坪内逍遙博士記念演劇博物館 (編)、『演劇百科大事典』、V、東京、平凡社、1961、pp.409-411; JOUVET (L.), *Molière et la comédie classique* Paris, Gallimard, 1965; CHEVALLEY(S.), *Molière en son temps, 1622-1673*, Genève, Minkoff, 1973; WILTHEY HITCHCOCK(H.), *The New Grove Dictionary of Opera*, III, London, Oxford University Press, 1997, pp.423-425

<sup>21</sup> とりわけ *Les oeuvres de Monsieur de Molière*, Amsterdam, Pierre Brunel, 1725 や *Les oeuvres de Molière*, Paris, la Compagnie des libraires, 1730 等の版は挿絵の充実した豪華版で、図像研究における資料的価値の高いものである。

<sup>22</sup> アンリ四世 (Henri IV, 1553-1610) は、ナントの勅令によりカトリックとプロテスタントの宗教対立を平定したフランス国王で、数多くの伝記が出版された。アンリ四世については以下の文献を参照：VAISSIERE(P.de), *Henri IV*, Paris, Fayard, 1925; LA BATUT(G. de), *Henri IV*, Paris, Mouton, 1928; BABELON(J.-P.), *Henri IV*, Paris, Fayard, 1982; バイラー『アンリ四世：自由を求めた王』、幸田礼雅訳、東京、新評論、2000。

<sup>23</sup> 「17 世紀フランスにおける歴史画と挿絵本との関係についての総合的研究」(科学研究費基盤研究 (C)、研究代表者：木村三郎、課題番号 22520110)

<sup>24</sup> BERMES(E.) et BRULEPORT(L.), *Inventaire du fonds iconographique de la collection des Jésuites des Fontaines*, Lyon, Bibliothèque municipale, 2004 ; DESPEYROUX(I.), *Supplément à l'Inventaire du fonds iconographique de la collection des Jésuites des Fontaines*, Lyon, Bibliothèque municipale, 2012

<sup>25</sup> DUC-DELESTRE(B.), *Inventaire et description générale d'un fonds iconographique appartenant à la Collection jésuite des Fontaines*: Mémoire de Maîtrise d'histoire, Lyon, Université Jean Moulin-Lyon III, 2001.

<sup>26</sup> グーグル・ブックス URL : <http://books.google.com/>

<sup>27</sup> BML で公開中のデジタル・アーカイブは以下のページからアクセス可能 : <http://www.bm-lyon.fr/trouver/basesdedonnees/Collections-numeriques.htm>

<sup>28</sup> 版画データベース URL :

[http://www.bm-lyon.fr/trouver/basesdedonnees/base\\_estampe.htm](http://www.bm-lyon.fr/trouver/basesdedonnees/base_estampe.htm)